

雑誌および SNS の建築写真における建築の写され方に関する研究

建築写真
建築一般誌

建築専門誌
SNS

2215009 浦上 穰
指導教員 脇坂圭一

1. はじめに

1-1. 研究の背景

建築のイメージを伝える際に重要な役割を果たしてきたのが「写真」である。建築の写真は、構図や視点の選択によって、その建築がもつイメージを大きく変化させる力を持つ。すなわち、建築写真は単なる記録媒体ではなく、建築の見え方や評価を左右する表現手段であるといえる。

近年では、SNS を用いて、誰もが建築イメージを共有できるようになり、これまで設計者や写真家から読者へと一方向的に行われていた情報伝達のあり方は大きく変化している。SNS 上では、ユーザーが自ら写真を撮影し発信することで、設計者や他のユーザーとイメージを共有しあう、多方向的なコミュニケーションが展開されている。さらに、SNS をプラットフォームとして用いることで、建築の魅力を広く一般に伝えることを理念に企画された「みんなの建築大賞」のように、SNS を活用して建築イメージを伝達するような試みもみられる。

一方で建築写真は、「何を」「どのように」写すかによって、空間の印象や意味を大きく変えてしまう。写真が一枚の「建築の顔」として流通し、それが空間そのもののイメージを決定しうる状況が、日常的に発生している。

1- 3. 本研究の目的

本研究では、建築専門誌と建築一般誌、SNS における建築写真を対象とし、それぞれの写真の特性を分析、比較することで、建築写真に示される設計者および撮影者がもつイメージと、来訪者がもつ認識の差異の一端を明らかにすることを目的とする。

1- 2. 既往研究の到達点と本研究の位置付け

建築写真の撮られ方、視覚表現に関する研究として、特定の建築家が手掛けた作品を対象に、建築雑誌および作品集内の写真から、複数の撮影者がそれぞれ建築をどのように表現しているのかを明らかにしたもの(文 1)、建築雑誌および建築一般誌を対象に、それぞれが提示する建築イメージを明らかにしたもの(文 2)、SNS に投稿された建築写真を対象に、保存改修建築の改修前後での撮られ方の変化を検証したもの(文 3)などがある。これらに対し、本論文は、建築専門誌から建築一般誌、SNS までの範囲における建築写真を横断的に検

証するものである。

	建築専門誌	建築一般誌・書籍	SNS
公共建築	高橋佳穂、谷川大輔、建築写真における公立文化施設のホワイエ空間の室内意匠に関する研究、日本建築学会大会学術講演梗概集(北陸)、2019	北村内書、山中新太郎、中林諒、日本における監獄建築の仕様分析-記念写真集の内部空間写真を分析対象として-、2022 年度日本建築学会関東支部研究報告集 II、2023	深谷亮太、塩崎太伸、加藤千佳、尾花日向我、SNS の投稿写真からみる保存・改修建築の撮られ方と改修前後での変化、日本建築学会大会学術講演梗概集(近畿)、2023
	本研究		
住宅	坪田柳、坂牛卓、建築写真の視覚的表現性に関する研究-青木淳の建築作品の写真的比較を通して-、日本建築学会大会学術講演梗概集(中国)、2017 久保井聡、永瀬智基、久野紀光、建築誌における現代日本住宅作品の建築写真の掲載順、日本建築学会計画系論文集 第 80 巻 第 717 号、 杉村駿輔、高砂正弘、建築雑誌における冒頭写真の表現の選定に関する研究、令和 2 年度日本建築学会近畿支部研究発表会、2020 平岩宏樹、坂牛卓、建築意匠設計における建築雑誌の役割に関する研究、建築一般誌と建築専門誌の作品写真から読み取れる両誌の特質分析、日本建築学会大会学術講演梗概集(九州)、2007		

図 1. 既往研究と本研究の位置付け

1- 3. 研究構成

本研究の構成を以下に示す(図 2)。本研究は全 7 章で構成され、3 章以降で分析・考察を行う。

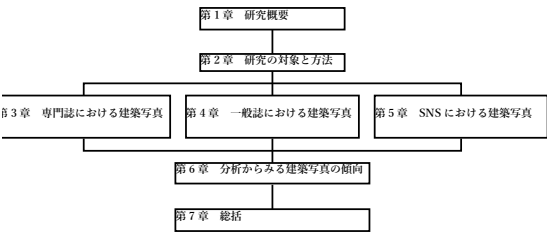


図 2. 研究構成図

2. 研究対象と研究方法

2- 1. 本研究の対象と用語の定義

本研究は、建築写真を調査対象とし、その収集媒体として建築専門誌「新建築」誌、建築一般誌「Casa BRUTUS」誌、SNS「X」を用いた。

調査対象事例の選定にあたっては、まず「みんなの建築大賞」における「2024 この建築がすごいベスト 10」「2025 この建築がすごいベスト 10」に選定された 20 事例を初期対象とし、その中から「新建築」および「Casa BRUTUS」への掲載が確認でき、さらに「X」において 20 枚以上の建築写真が存在する 5 事例を最終的な調査対象とした。

SNS からの写真収集については、X の検索機能を用いて、愛称、略称を含む建築の名称を検索し、収集を行う。収集期間については、対象事例が「この建築がすごいベスト 10」に選定された年の 1 月から 2 月末日までを調査期間と設定した。具体的には、2023 年度ノミネート事例については 2023/01/01～02/28、2024 年度ノミネート事例については 2024/01/01～02/29 の期間を収集対象とした。

専門誌から収集された 68 枚、一般誌から収集された 36 枚、SNS から収集された 784 枚の合計 888 枚を調査対象とする。

2- 2. 本研究の方法

収集された資料写真について、被写体の内容に基づき、以下の要素に分類を行い整理した。類型化要素を以下に示す。

表 1. 類型化要素

	類型化要素	
1	内外	外/内
2	スケール	建築+周辺XL/建築全体L/建築部分M/建築詳細S
3	アングル	正対/斜め/見上げ・見下ろし/斜見上げ・斜見下ろし
4	時間帯	朝/昼間/夜間
5	人/物の有無	人/物/なし
6	縦横	縦/横/同

3. 専門誌における建築写真

3-1. 内外

全体の内訳は外部 34 枚、内部 34 枚と、内外は丁度同じ割合で写されている。外部の割合が過半数を占めたのは、太宰府、豊田、simose の 3 事例、地中図書館とホントカについては内部の方が多く写されていた。

3-2. スケール

建築+周辺 XL と建築全体 L で全体の 72% を占め、建築空間を全体像として捉える傾向が見て取れる。全体平均に加え、全事例において XL および L が過半数を占めていた。XL と L の内訳について比較すると、simose、豊田は XL の方が多く、ホントカ、太宰府、地中は L の方が多い。

3-3. アングル

斜め、正対で撮られたものが多く、見上げ/見下げ、斜見上げ/斜見下げは全体の 20% 程度であった。正対のアングルでは被写体を意識的に写し、斜めは奥行きや立体感を捉えつつ、写真としての水平垂直を意識している。

3-4. 時間帯

豊田市の写真における夜間を写したもの 1 枚を除き、全て昼間に写されたものであることが分かった。

3-5. 人/物

表 2. 対象事例リスト

	建築	略称	設計	竣工年	所在地	調査期間	専門誌(枚)	一般誌(枚)	SNS(枚)
1	SIMOSE	《simose》	坂茂 建築設計	2023	広島県 大竹市	2023.01.01~2 023.02.28	23	5	137
2	太宰府天満宮 仮殿	《太宰府》	藤本壮介 建築設計事務所	2023	福岡県 太宰府市	2023.01.01~2 023.02.28	7	7	412
3	地中図書館	《地中》	中村拓志& NAP建築設計事務所	2022	千葉県 木更津市	2023.01.01~2 023.02.28	10	5	23
4	小千谷市ひと・まち・文化共創拠点 ホントカ。	《ホントカ》	平田晃久 建築設計事務所	2024	新潟県 小千谷市	2024.01.01~2 024.02.29	17	14	72
5	豊田市博物館	《豊田》	坂茂 建築設計	2024	愛知県 豊田市	2024.01.01~2 024.02.29	11	5	140

No.06

作品 : ホントカ
掲載 : 新建築

内外 : 内部
スケール : L
アングル : 斜め
時間 : 昼
人物 : なし
縦横 : 縦

建築+周辺 XL

建築+環境

内部+外部景観

建築全体 L

ヴォリューム

内部全体

建築部分 M

ファサード部分

内部部分

建築詳細 S

サイン

ディテール

アングル

正対

見上げ/見下げ

斜め

斜め見上げ/斜め見下げ

人/物の有無

人

物

なし

図 3. 分析例

図 4. スケール

図 5. アングル

図 6. 人/物の有無

全体として人が写っていない写真が過半数を占めており、建築のかたちそのものを捉える意図があると考えられる。

3-6. 縦横

全事例において縦もしくは横に分類された。横構図の写真が大半を占め、縦構図の写真については各事例2～3枚ずつ確認された。

4. 一般誌における建築写真

4-1. 内外

全事例について、内部を写したものがやや多い結果となった。ホントカにおいて、内部への偏重が顕著である。

4-2. スケール

全体平均はLおよびMに偏重しており、simose、太宰府、地中、ホントカについては、XLの写真が確認されなかった。

全体として枚数が少なく、印象的な部分に焦点を当てる傾向がみられた。

4-3. アングル

斜めのアングルが過半数を占めており、奥行や立体感を用いた写真表現に傾倒しているが、見上げ/見下げ、斜見上げ/斜見下げは少なく、垂直性に一定の意識をもっていることがわかる。

4-4. 時間帯

すべて昼間に写されたものであり、朝や夜間などの時間に写されたものはみられなかった。

4-5. 人/物

simose、地中、豊田について、すべて人物の写らない写真であった。人物の写る割合として、ホントカが最も高く、実際の空間の利用風景を捉えている写真が確認された。

4-6. 縦横

地中と豊田については縦構図の方が多く、太宰府において、縦横比が等しい、正方形の写真が確認された。

5. SNS における建築写真

4-1. 内外

全体として外部を写したものが多く、太宰府については、外部の割合が9割以上を占める、強い偏重がみられた。内部を多く写した事例は、地中とホントカの2事例で、ホントカについてのみ、内部の割合が8割を占め、内部への強い偏重を持つことが確認された。

4-2. スケール

全体としてはLとMに偏重がみられ、simose、ホントカ、豊田についてはMが最も高い割合を占めた。simose、ホントカ、地中についてはSの割合が平均よりも高く、細部への意識が比較的強い事がわかる。太宰府と豊田については、他3事例および平均と比べて、XLの割合が高く、周辺および全体へ

の意識が強い。

4-3. アングル

5事例の中で比較的規模の小さい地中では正対の割合が高く、ホントカや豊田と言った事例では、斜めの割合が多く確認された。太宰府については斜見上げの割合が5事例の中で最も高く、特徴的な屋根の部分に強い注目が集まっていることがわかる。

4-4. 時間帯

大半は昼間に写されたものであり、朝や夜間などの時間に写されたものの割合は低いものの、全事例において、夜間の写真の存在が確認された。また、ホントカについては朝とみられる時間帯の写真も確認されており、時間帯に起因する、光が特徴的な写真がいくつかみられた。

4-5. 人/物

全体として人が写るものが過半数を占めており、太宰府においては全体の8割以上を占める。simose、太宰府、ホントカ、豊田の4事例については、人物以外に、キャラクターのような、特定の物を同時に写したものが確認された。しかし、太宰府以外の事例については、人が写っていない写真の割合が過半数を占めており、人物の写り込みに対する意識や配慮がなされていることもみてとれる。

4-6. 縦横

地中については、横構図より縦構図の数が多く、人物を主体に写された写真も確認された。全体およびその他4事例について、縦横の比率は類似しており、7割～8割ほどを占めている。

5. 結論

建築写真を分析することで、建築の用途や空間特性と写真の関係性がみられた。専門誌においては、建築そのものに対する注目や記録性を重視した写し方、一般誌においては枚数が限られている中で、建築空間を伝達するため、奥行や立体感が強調されていた。SNSにおいては、事例によって注目される箇所の傾向が大きく異なり、特徴的なディテールや建築の外観に対しての注目の偏重がみられた。

参考文献

- 文1) 平田柳, 建築写真の視覚的表現性に関する研究—青木淳の建築作品の写真の比較を通して—, 日本建築学会大会学術講演梗概集(中国) 2017年8月, 2017
- 文2) 杉村駿輔, 建築雑誌における冒頭写真の表現の変遷に関する研究, 令和2年度 日本建築学会 近畿支部研究発表会, 2020
- 文3) 北村円香, 日本における監獄建築の仕様分析—記念写真集の内部空間写真を分析対象として—, 2022年度日本建築学会 関東支部研究報告集Ⅱ, 2023
- 文4) 高橋佳穂, 建築写真における公立文化施設のホワイエ空間の室内意匠に関する研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集(北陸), 2019

		専門誌				一般誌				SNS		
	要素	代表写真			要素	代表写真			要素	代表写真		
simose	内外	外			内外	内			内外	外		
	スケール	XL			スケール	M			スケール	M		
	アングル	正対			アングル	斜め			アングル	斜め		
太宰府	内外	外			内外	内			内外	外		
	スケール	L			スケール	S			スケール	L		
	アングル	正対			アングル	斜め			アングル	正対		
地中	内外	内			内外	内			内外	内		
	スケール	L			スケール	M			スケール	L		
	アングル	斜め			アングル	斜め			アングル	正対		
ホントカ	内外	内			内外	内			内外	内		
	スケール	L			スケール	L			スケール	M		
	アングル	斜め			アングル	斜め			アングル	斜め		
豊田	内外	外			内外	内			内外	外		
	スケール	XL			スケール	M			スケール	M		
	アングル	斜め			アングル	斜め			アングル	斜め		

図 7. 各事例 / 各媒体における代表写真

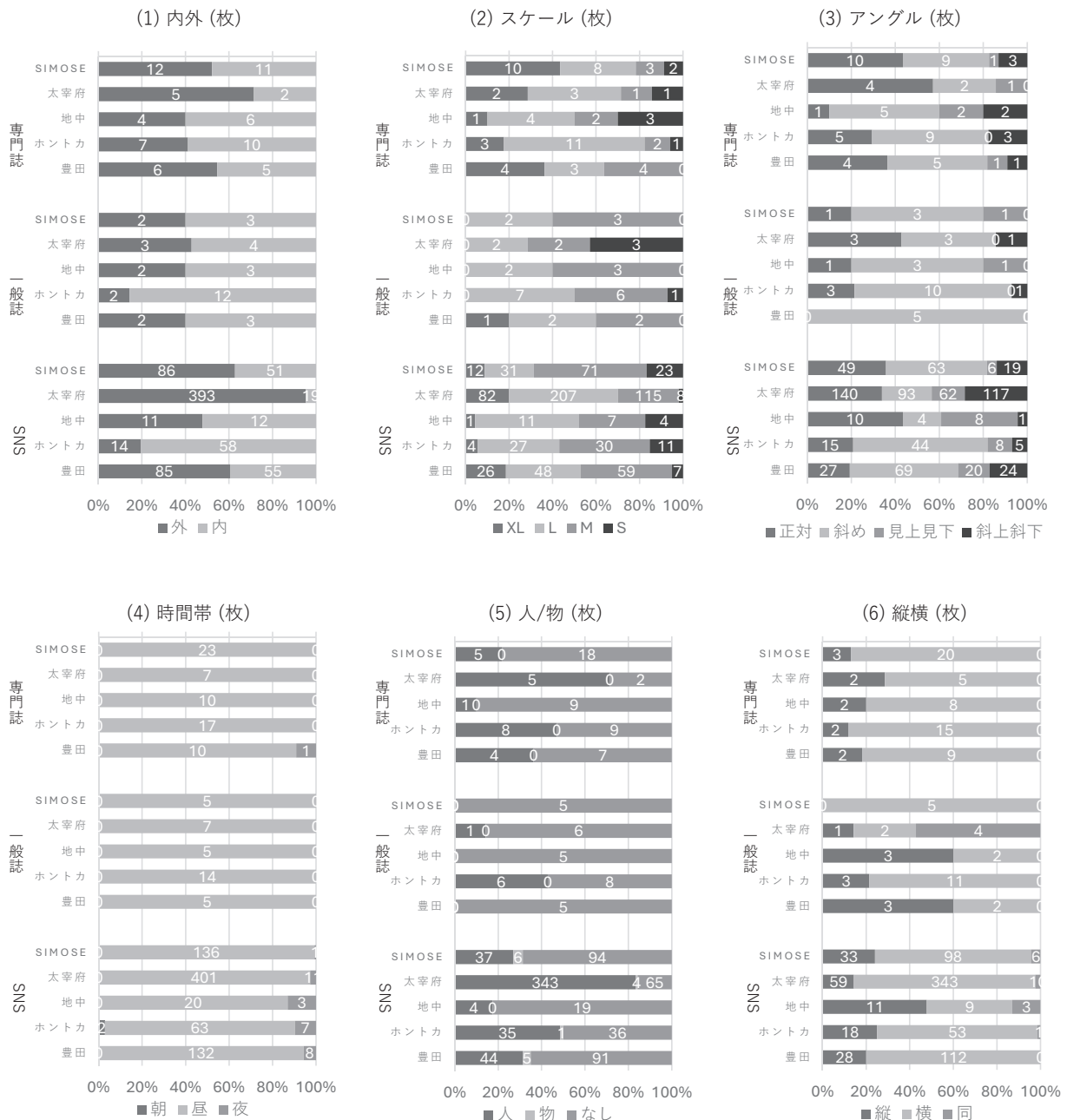


図 8. グラフ (1) ~ (6)